

本厚木周辺市街地における都市のイメージに関する研究

礪野 瑞樹 今井 巧磨 小川 稜斗 (指導教員 八尾 廣)

1. はじめに

厚木市では、長年開催され市民に親しまれている鮎祭りに加え、近年は厚木国際大道芸祭をはじめ、数多くの新たなイベントも行われているが、本厚木駅周辺市街地のフィジカルな都市空間については特筆すべき魅力が今ひとつ感じられず、イメージアビリティ (ケヴィン・リンチ)²⁾ が一見小さい都市のように思われる。

しかし昨年には小田急線高架下ミロードが整備されアミュ厚木も開館し、少しずつ厚木の街も変わる兆しが見えている。厚木市中心市街地に対して、住民や本厚木駅を利用する人々はどのように捉えているだろうか。魅力を感じる部分があるとすればそれはどこなのか。魅力を感じていないのならそれは何故なのか。

本研究は、本厚木駅を利用する人々 (厚木市在住、非在住を含む) がイメージの中で市街地内のどこをまず思い浮かべるかについてのアンケート調査を行い、本厚木駅利用者の「潜在意識の中」にある中心市街地の「場所」についてのイメージを抽出する事を試みる。

2. 調査方法

2.1 アンケート調査方法

アンケートは下記の様なシンプルな方法による。

- 1) 中心市街地の地図を見せる。
 - 2) 「あなたがこの地図を見て思いつく場所を指し示してください。」という質問を投げかけ、回答者の示した場所を全て記録する。
 - 3) 次に、「この地図を見てあなたが好きな場所、お気に入りの場所がありましたら場所を指し示してください。」という質問を投げかけ回答者の示した場所を全て記録する。
 - 4) 最後に回答者性別、年代、厚木市在住非在住の属性を確認して記録する。
- 質問を2)、3)のように2段階で行った理由は、「ま

ず思いつく場所」は必ずしもその人が魅力を感じている場所ではないからである。例えば、在住者にしかわからない魅力的な場所があるかもしれない。そこで、2つの質問により人々が好ましく思う場所を抽出することを試してみた。

尚、調査方法については「中心地区空間におけるイメージの構造」(その1~3) (志水英樹、福井通)¹⁾ を参考としている。

2.2 調査日程

2014年11月24日、26日、27日、28日。

計4日間(調査対象人数:76名)

12月1日、3日、4日、5日、8日、9日、10日、12日、16日、19日。

計10日間(調査対象人数:424名)

調査時間については調査日により異なるが、通過者の多い9:00~20:00の範囲内で行っている。

2.3 調査場所の選定

本厚木駅利用者全てを調査対象にするため(在住非在住、年齢、性別関係なく)最も人通りが多い中央改札の南口、北口を調査場所とした。

2.4 調査時に使用する地図の作成

今回は、本厚木駅中心市街地を対象とするため、駅を中心とした半径600m(徒歩約10分)の円を描き、調査に使用する地図について検討を行った。この円の境界線附近には北側:県道603号線、西側:国道129号線、東側:601号線、南側:国道129号線の文化会館前交差点から601号線を繋ぐ道路という、本厚木駅を中心とした歩行者の行動範囲と言える境界線が存在する。しかしこれらの道路の外側にはこれに接して中央公園、スポーツセンター相模川河畔等、市民のよく利用する施設が存在するため、道路の外側の境界線から50m以内の範囲も対象に含めることとした。(東側は相模川河畔を含めている。)元となる地図は、近年人々が最も多く利用していると思われるGoogle Mapを用い、

上記の範囲を抽出した。

彩色があると、地図中の場所の目立ちやすさに差が生じるため、地図をモノクロ表示とし、更に施設や道路境界線を判別しやすいよう濃度を調整した他、文字が判別しやすいよう一部文字の大きさも調整した。作成した地図を張り A1 サイズのボードを作成し、これを使用した。

2.5 アンケート調査における留意事項

上記 2.1 に記した方法によりアンケート調査を行った。調査時においては各年代、あるいは男女別の対象者数に大きな偏りが生じないよう極力配慮し、本厚木駅利用者の平均的な調査結果が出るよう留意した。在住・非在住については、ヒアリングの結果に初めて判明するため、対象者数に偏りが生じた。

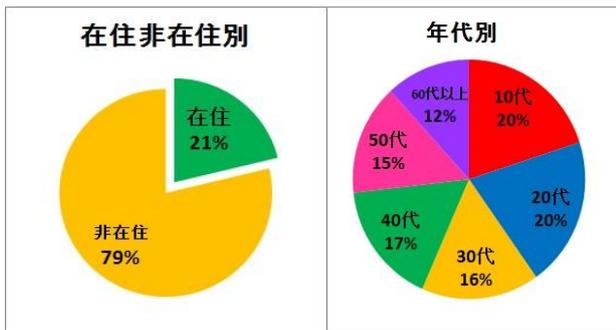


図1 在住非在住別グラフ 図2 年代別グラフ

3. アンケート結果の集計

3.1 集計方法

アンケート結果を集計し、全対象者、男女別、在住・非在住別に場所ごとの想起回数を表にまとめた。また、それぞれの想起回数を対象者数で割った値を想起確率（対象者のうち当該場所を指摘した人数の割合）と定義し、想起確率についても集計表を作成した。アンケートにおいて想起された場所について、場所の用途や内容により、「官公庁」「医療施設」「金融機関」「教育施設」「文化施設」「スポーツ施設」「宿泊施設」「大型物販施設」「中小物販及びサービス業店舗」「飲食店」「遊技場」「公園」「公共交通機関」「宗教施設」「エリア名称」の15種類に分類した。

3.2 想起回数分布図、想起確率分布図の作成

調査対象を想起した回数、場所などの情報を分かりやすくするため、それぞれ色別に分類した結果を地図上に落としていき、想起回数分布図（プロット地図）を作成した。対象となる男女、在住・非在住を比較検討するため、想起確率による分布図も作成し、さらに男女、在住・非在住の想起確率の差分による分布図を作成した。

分布図の作成にあたっては住宅地図を用い、想起回数分布図においては1想起回数=1000mmの半径とする円、想起確率分布図においては想起確率1%=3000mmの半径とする円を、場所の分類による色分けを行いながらプロットした。

3.3 集計結果

1) 全対象者の集計結果に見られる特徴

想起場所の傾向については、上位の大半が商業施設や公共交通施設、遊技場で占められ、特に大型物販施設（1位は圧倒的にイオン）の想起確率が非常に高かった。公共施設の中では「アミューあつぎ」が上位（7位）に入っていることが注目される。その他については、北口の街区南辺に想起ポイントが集中していた。また、一番街というエリア自体は比較的上位に入っているが、その内部には殆ど想起される場所がないこと、都市公園のような本来市民の憩いの場所として親しまれるべき施設が上位に入っていないことがわかった。

（表3参照）

2) 年齢別の集計結果に見られる特徴

各年代を全体の集計結果と比べたところ、10代20代は全体では6位だったシルクハットが3位に浮上しており、遊技場が上位に挙がっている傾向にある。しかし、10位までには必ず全体と同じイオン・ミロード・イトーヨーカドー・有隣堂が入っている。30代～50代は全体の集計結果と同じ傾向となっている。60代では全数では比較的下位の薬局が3位、仁厚会病院が5位に入っており、医療施設の想起回数が多い傾向となっている。有隣堂（書店）が、年代が上がるにつれ上位（50代：3

位、60代：2位) となっていること等、年代による生活スタイルの違いが現れている。(表3参照)

3) 男女別の集計結果に見られる特徴

男女共、上位5位以内には大型物販施設が入っている。上位10位以内では男性はパチンコ店が2店入っており大型店舗以外では北口一番街の街区南辺に集まる遊技場の数が多い。これに対し、女性はアミューあつぎが5位に入っており(男性では14位)、アミューあつぎの利用が女性において広がっていることが見てとれる。

	男性	確率(%)	女性	確率(%)
1位	イオン	34.9	イオン	41.9
2位	ミロード	17.9	ミロード	23.0
3位	イトーヨーカドー	17.1	有隣堂	18.5
4位	有隣堂	14.7	イトーヨーカドー	17.3
5位	バスターミナル	13.5	アミューあつぎ	12.1
6位	シルクハット(ゲームセンター)	12.7	シルクハット(ゲームセンター)	10.5
			バスターミナル	10.5
7位	プラザポウル(ボーリング)	10.7	マツモトキヨシ	8.1
8位	ミナミ(パチンコ)	9.5	カラオケ館	7.7
	PIA(パチンコ)	9.5		
10位	マクドナルド	8.3	マクドナルド	7.3

■ : 商業施設 □ : 遊技場

表1 男女別に見る想起確率上位10位

4) 在住・非在住別の集計結果に見られる特徴

在住・非在住別では想起確率上位5位は大型物販店舗で殆ど変わらないが、上位6位～10位を見ると大きく違ってくる。非在住者は中小店舗や飲食店が入っているのに対し、在住者は病院、図書館、幼稚園、市役所、中央公園など公共施設が占めている。在住者、非在住者の「日常生活においてよく立ち寄る場所」の傾向がよく現れているといえる。

	在住	確率(%)	非在住	確率(%)
1位	イオン	33.0	イオン	39.8
2位	イトーヨーカドー	17.9	ミロード	21.1
3位	ミロード	17.9	イトーヨーカドー	17.0
4位	有隣堂	16.0	有隣堂	16.8
5位	仁厚会病院	13.2	バスターミナル	12.7
6位	シルクハット(ゲームセンター)	13.2	シルクハット(ゲームセンター)	11.2
7位	市立中央図書館	11.3	アミューあつぎ	9.9
8位	市立厚木保育所	10.4	プラザポウル	8.6
9位	厚木市役所	10.4	マクドナルド	8.6
	中央公園	9.4	ミナミ(パチンコ)	7.9
10位	バスターミナル	9.4		

■ : 商業施設 □ : 遊技場

表2 在住・非在住別に見る想起確率上位10位

4. 比較分析・考察

4.1 <男女差比較検討>

男女別の想起確率分布図の差分を求め、男女間差分による想起確率分布図を作成し、分析を行っ

た。差分図を描くと明確となるのは、男性の想起確率の方が大きな場所は主に北口からバスターミナルにかけての街区南側に集中しており、女性の想起確率の方が大きな場所はイオン、ミロード、有隣堂などの大型物販施設の想起確率が大きく、ミロードを除き駅から200～300m圏に分布することである。

このことから、中心市街地の表(おもて)ともいえる北口街区の駅側に、より男性の好む傾向にある施設が偏在しており、本厚木のイメージが必ずしも女性を意識したものとなっていないことがわかる。

4.2 <在住非在住差比較検討>

在住者と非在住者別の想起確率分布図についても差分図を作成して分析を行った。在住者の方が想起確率の大きな施設は上位から順に仁厚会病院、市立中央図書館、市立厚木保育所、中央公園等が並び、市民の生活のための公共施設群が浮かび上がってくる。これに対し、非在住者の想起確率の大きな場所はイオン、マクドナルドなど商業施設や飲食店が多く挙り、主に北口の一番街街区の南側に想起ポイントが集中している。総合的には非在住者の方が想起確率が大きい場所は、大店舗や飲食店、味の名店(イオンの中のパン販売店やプティティール(洋食レストラン))など、わかりやすい商業施設に偏る傾向にあった。

5. まとめ

今回の調査結果については、単なる場所を示してもらおうというアンケートであったがために、全体として、「普段よく行く場所」が指し示される傾向にあった。人々の生活上よく利用する場所の分布と頻度を全体、年齢別、男女別、在住非在住別に抽出することができたといえる。

全体を見ると上位4つの施設の想起確率が顕著に高く、また遊技場、飲食店舗の想起確率が上位を占める、次に中小店舗が続く、その中に病院、市役所、アミューあつぎ、図書館、中央公園等、公共性の高い施設(場所)が入り込んでくる構図

であるが、いずれも順位は比較的低い結果となった。しかし全体として、「場所」としての魅力により想起されるような場所（例えば中央公園、相模川、駅前広場やその他の公園など）の存在感は乏しく、アンケート結果から逆に人々の街に対するイメージを推測すると、殆どが商業施設で占められていることから、都市空間としての街の魅力が本厚木中心市街地には不足していることがこの調査結果からも言えるのではないかと思われる。

6. 参考文献

- 1) 中心地区空間におけるイメージの構造その1～3, 志水英樹, 福井通, 日本建築学会論文報告集(229), 1975., (236), 1975., (244), 1976.
- 2) 都市のイメージ 新装版, ケヴィン・リンチ, 岩波新書;新装版, 2007.
- 3) 建築・都市計画のための調査・分析方法, 日本建築学会編, 井上書院, ;改訂版, 2012.
- 4) 厚木市HP人口統計
<http://www.city.atsugi.kanagawa.jp/atsugi/tokei/jinkou/d026355.html>
- 5) あきたバリアフリーマップ:
<http://common.pref.akita.lg.jp/bf-map/sight/institution.htm>
- 6) 小田急電鉄HP
<http://www.odakyu.jp/company/business/railways/users/>

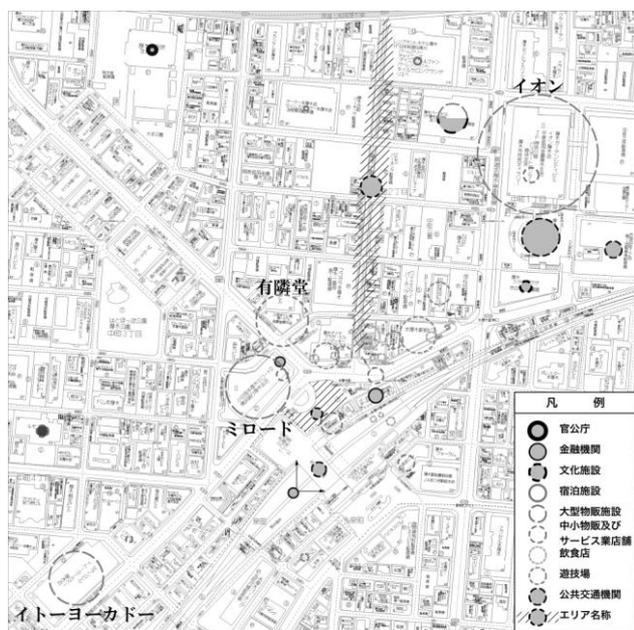


図2 全対象者における想起確率分布図

全数における順位	場所	施設区分	10代	20代	30代	40代	50代	60代-	合計
1位	イオン	大型物販	38	41	31	35	23	24	192
2位	ミロード	大型物販	21	30	17	23	7	4	102
3位	イトーヨーカドー	大型物販	13	16	17	14	16	10	86
4位	有隣堂	大型物販	7	16	17	13	14	16	83
5位	バスターミナル	公共交通	16	16	9	10	5	4	60
6位	シルクハット(遊技場)	遊技場	19	26	3	7	1	2	58
7位	アミュあつぎ	公共施設 大型物販	14	12	9	6	4	2	47
8位	ブラザボウル	遊技場	7	11	10	5	3	5	41
9位	マクドナルド	飲食店	8	9	6	5	7	4	39
10位	ミナミ(遊技場)	遊技場	6	14	3	7	4	2	36
11位	マツモトキヨシ	中小物販	6	13	6	7	2	0	34
	一番街	エリア名	8	6	6	8	4	2	34
13位	PIA(遊技場)	遊技場	4	6	8	5	2	2	27
	駐輪場	公共交通	8	4	3	6	3	3	27
	カラオケ館	遊技場	5	8	2	7	3	2	27
16位	和田薬局	中小物販	2	2	3	2	6	11	26
	駅前ローソン	中小物販	10	7	2	1	3	2	25
18位	洋服の青山	中小物販	2	4	2	5	5	6	24
	ペーカージェフ	中小物販	3	5	5	2	5	4	24
20位	スルガ銀行	金融機関	1	4	5	7	4	2	23
	本厚木駅	公共交通	3	5	4	4	5	2	23
22位	docomo shop	中小物販	3	4	3	2	4	3	19
	磯丸水産	飲食店	0	5	3	5	4	2	19
24位	仁厚会病院	医療施設	1	0	3	1	4	9	18
	駅前広場	エリア名	4	5	3	2	3	1	18
	ABCマート	中小物販	6	4	2	2	0	4	18
	市立中央図書館	公共施設	8	2	1	4	2	1	18
28位	中央公園	エリア名	5	3	2	3	4	0	17
	吉野家	飲食店	3	6	4	3	0	1	17
	横浜銀行ATM	金融機関	3	4	3	2	3	1	16
31位	ビックエコー	遊技場	6	3	2	3	2	0	16
	横浜銀行	金融機関	4	2	5	1	4	0	16
	ブティティール	飲食店	2	1	5	3	3	2	16
	ダルマ(ラーメン)	飲食店	4	5	1	4	0	2	16
	餃子の王将	飲食店	3	3	4	1	3	2	16
36位	相模川	エリア名称	4	4	1	4	0	1	14
	ケンタッキーフライドチキン	飲食店	3	3	2	1	4	1	14
38位	厚木市役所	官公庁	4	1	2	1	4	1	13
	ジョイエステ	サービス	3	4	4	2	0	0	13
	箱根そば	飲食店	0	2	3	2	5	1	13
	市立厚木保育所	教育施設	0	4	3	4	2	0	13
	松屋	飲食店	1	4	3	2	3	0	13
43位	ジリオン(遊技場)	遊技場	3	4	3	1	1	0	12
44位	ゲラゲラ(漫画喫茶)	飲食店	1	3	1	3	2	1	11
	レンブラントホテル	宿泊施設	1	3	3	0	1	3	11
46位	厚木旭郵便局	金融機関	1	1	0	3	2	2	9
	ミスターナツ	飲食店	4	2	1	0	1	1	9
48位	てん屋	飲食店	2	1	3	1	0	1	8
49位	オーケーストア	飲食店	0	2	3	0	1	1	7
	叙々苑	飲食店	2	3	0	0	2	0	7
	ピヤードパパ	飲食店	3	2	0	1	1	0	7
	サイゼリア	飲食店	2	2	0	0	2	1	7
	スポーツセンター(東町)	スポーツ	0	0	1	1	2	3	7
54位	大阪王将	飲食店	1	2	1	1	1	0	6
	ホビーステーション	中小物販	6	0	0	0	0	0	6
	ガスト	飲食店	1	1	2	0	0	2	6
	ユーススタイル	飲食店	3	1	0	0	0	2	6
	すき家	飲食店	1	0	2	1	2	0	6
59位	大戸屋	飲食店	1	0	0	2	1	1	5
	智音寺	宗教施設	1	0	1	1	1	1	5
	城南予備校	教育施設	4	0	0	0	0	1	5
62位	東横IN	宿泊施設	0	1	0	2	1	0	4
63位	ホテルピスタ	宿泊施設	1	0	1	0	0	1	3
64位	旭公園	エリア名称	0	0	0	1	1	0	2
	想起回数合計		306	352	249	249	202	162	1520

グレー色は商業的施設(場所)を示す。

表3 想起回数の集計表